宮沢賢治記念館 発行 〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36

☎ (0198) 3 1 − 2 3 1 9 **№** (0198) 3 1 − 2 3 2 0











(田中直樹 「賢治の世界」ワークショップ in 西和賀 2019.10.21)

宮沢賢治のオノマトペの「つ」(促音)

明治大学 小野正弘



TBSラジオ「爆笑問題の日 曜サンデー」という番組に出演 したことがある(2014年8月24 日)。この番組には「サンデー マナブくん」というコーナーが あり、その日は「『宮沢賢治の 世界』をマナブ!」と題して、

宮沢賢治が話題に取り上げられて、声が掛かった のである。他に、文学の方面から日本大学の山下 聖美先生も出演し、花巻観光協会の高橋さんとい うかたも電話出演した。番組スタッフと予めの打

ち合せをした際、私には、賢治のオノマトペにつ いて、どういう特徴があるのかを中心に話をして もらいたいというので、承知した旨を伝えたとこ ろ、さらに「ときに先生、宮沢賢治が作って、今 のわれわれも普通に使っているオノマトペには、 どんなものがあるでしょうか?」と尋ねてきた。 宮沢賢治独自のオノマトペといえば、「もかもか」 (「やまなし」)、「ドッテテドッテテ、ドッテテド」 (「月夜のでんしんばしら」) などが思い浮かぶが、 求められているものは、そういう特殊なものでは なく、たとえば「きらきら」のように日常普通に 使う言葉で、宮沢賢治発のものはないのかという 質問なのである。

訊いているほうは、なにげなく質問しているの

だろうが、これは、超難問である。たとえば、「ネコ」という言葉は誰が発明したんですか、という問いに匹敵する。あどけない質問こそが難しい。スタッフの質問もその一つで、そんなことは、まず分からないとしたものである。

しかし、その時、ちょっとひらめいたことがあった。『日本国語大辞典 第二版』(小学館)は、見出し語数50万語、用例数100万例を誇る、日本最大の国語辞典である。このデータが、JapanKnowledgeというインターネットのサイトで有償公開されていて、私も、その個人会員になっている。このサイトは、さまざまな検索の方法が可能である。それで考えたのは、「宮沢賢治」を引用している用例で、なおかつオノマトペで、しかも、宮沢賢治の用例が冒頭に載っているものを見れば、なにか手がかりがつかめるのではないかということであった。

そこで実際に、やってみた。詳しい手順は省略するが、「宮沢賢治」を用例に持つ見出し語は、165件ヒットする。意外に少ないような気もする。あとは、それを目視で、前述のように、オノマトペの項目で賢治の用例が冒頭にあるものをチェックしていった。すると、「ぎくっと」(「銀河鉄道の夜」)、「きちっと」(同)、「ぴたっと」(同)が、該当することが分かった。まず驚いたのは、それらが、すべて「銀河鉄道の夜」から引かれていたことである。

- ●ぎくっ-と〔副〕急に驚きおそれるさまを 表わす語。「ぎくり」よりも息詰まった場合、 急な感じにいう。
 - *銀河鉄道の夜〔1927頃か〕〈宮沢賢治〉九 「ジョバンニはそっちを見て、まるでぎくっ としてしまひました」
 - *真空地帯〔1952〕〈野間宏〉一・六「木谷 はぎくっとして体をふるわせた」

実は、『日本国語大辞典 第二版』の冒頭例といっても、それは、現時点で知られている最も古い例であって、それが、本当に最も古い例であるのかは、さらなる検討を必要とする。実際、私の調査によると、「ぎくっと」と「ぴたっと」は、「銀河鉄道の夜」より前の「青木大学士の野宿」という作品に出てくる。したがって、4語すべてが「銀河鉄道の夜」の例だったのは、残念ながら偶然らしい。

しかし、もう一つのポイントがある。それは、「ぎ

くっと」「きちっと」「きらっと」「ぴたっと」がすべて、「ABっと」というパターンになっていることである。「AB」のことを、仮に「基本要素」と呼ぶことにするが、この基本要素に「っ」(促音)を付加した、前述の語例が、もし賢治の創始ということであれば大発見である。が、一般的に言ってそこまでは難しいと思うのでそこは保留にしておき、とりあえず「っ」を基本要素に加えるものを愛好していたのか、ということはどうであろう。

実は、私は、宮沢賢治の初期の童話34作品のオ ノマトペ形成のパターンを分析したことがある (小林隆編『感性の方言学』ひつじ書房、2018年 5月)。そこでは、上記作品に1600回現われるオ ノマトペが、どのように形成されてゆくのか論じ た。そして、そのためのデータベースも構築した。 それによれば、基本要素に直接「っ」を加えるも の(たとえば、「かさっ」「きりっ」)は、91回使 われていることが分かった。これだけ見ると、そ う多くもない印象である。しかし、オノマトペの なかに「っ」が入っているものを抜きだしてみる と、「ざっざざざざざざあ」「ぱららららっららあ」 「どっどどどどどう」のような個性豊かなもの(す べて「かしはばやしの夜」)をはじめとして、452 回を数える。つまり、4回に1回は、促音付きの オノマトペを使っているのである。あとは、他の 作家と比較しないとなんとも言えないことである が、印象としては、促音を好んで使っているのは、 やはりひとつの特徴のように思えるのである。

宮沢賢治との出会い方

清泉女学院中学高等学校 構 大樹



私は勤務先の女子中高一貫校で文芸部の顧問をしている。あるとき、クラブ活動のなかで文学作品との出会い方の話になったことがある。生徒は新しい作品との出会いとして、近しい人からの推薦、本の表紙や

あらすじ紹介、書店・図書館のPOP(Point of purchase advertising)など、ある意味ではこちらが想定済みのきっかけをあれこれ出していったが、その一方で「なるほど、そういうのもあるな」と、あらためて意識させられる出会い方も挙げてくれた。"推し"をきっかけとした出会いである。

ここでいう"推し"とは、ある特定の範囲内(たとえばアイドルグループやアニメ)で、思わず人に熱く語りたくなるほど自分がのめり込んでいる対象のことを指す。生徒は"推し"が読んでいるから、あるいは"推し"にまつわるものだから自分も読んでみるということがあり、それはいたって普通のことだと自信満々に話した。もちろん、そう簡単に一般化するわけにはいかない。しかし、確かに何かを理解するために、その参考となりそうな文学作品に手をのばすという読書はあり得る。「何か」に「尊敬する人」、「参考となる本」に「彼の愛読書」を代入すれば、この文学作品との出会い方がぴんと来やすくなるはずだ。

そして、今こうした出会い方が、やはり盛り上 がりを見せているのだろう。たとえば漫画『文豪 ストレイドッグス』(朝霧カフカ原作、春河35作画、 KADOKAWA、2013年~) やゲーム『文豪とア ルケミスト』(DMM GAMES、2016年~) が牽 引した"文豪ブーム"は、それらのコンテンツが、 文豪とされる作家たちへの注目に先立つかたちで 人気を博したために起こった現象である。"文豪 ブーム"を通じて行われる読書とは、まさに"推 し"となる対象の理解を促し、深めるためのもの となるに違いない。興味深いことに、こうした出 会い方は、読書以外でも看取されるのだ。"聖地 巡礼"と称されるコンテンツ主導の観光は、その わかりやすい例だ。"聖地巡礼"を行う旅行者は、 ある漫画、アニメ、ゲーム、実写映画、ドラマな どの鑑賞をきっかけとして、その舞台となった観 光地を訪問する。つまり当該地との出会いが、そ れに先立つコンテンツなしには成り立たない。こ うした点において、"聖地巡礼"と"推し"をきっ かけとした文学作品との出会い方は重なり合う。

さて現在の賢治受容を、ここまで述べてきたような動向をふまえて眺めてみたい。近年、賢治との出会い方はどんどん多様化しているのではなかろうか。というのも、これまでは絵本や著作集、教科書からきっかけを得るケースが、多くの受容者をカバーするものとして想定できただろう。これは賢治そのものに、何らかの価値を置くメディアをきっかけとした出会いと言える。ところが今、そうしたケースと同じくらい考慮しておかねばならないのは、賢治に対してもっとフラットな視線を送るコンテンツをきっかけに、賢治への興味・関心が惹起されるケースである。

もの別別こうでかがるすくうととテ照い況を出ったが状で出したがにてがないのかけったはいいるがはいるけんにである。のき会で見かといるのかにないのかにないのかけんにないのからいい逃ないとのから、



こで思うままに事例を挙げながら、コンテンツを きっかけとする賢治との出会いを考えてみよう。 たとえば2020年1月にインターネット上で配信さ れた記事「巨人・ドラ1堀田 "雨ニモマケズ" 精神でプロ初勝利 同郷・宮沢賢治の詩はバイブ ル」(デイリーニュース、2020年1月4日配信) は、言うまでもなく「雨ニモマケズ」が中心の記 事ではない。堀田賢慎選手の近況が書かれたもの である。けれども「雨ニモマケズ」を知らない人 にとって、これが読むきっかけになることもある だろう。またNHK教育テレビで放送中の『にほ んごであそぼ』(2003年~)ではいくつかのコー ナーで、朗読の心地よさから賢治作品が取り上げ られている。番組参加型の企画「名文を言ってみ よう!」で視ることのできる、子どもたちが「雨 ニモマケズ」を朗読する姿は一生懸命であり、同 時に作品の内容は二の次であるかのようである。 しかし、そうして身体化されたリズムが、やがて どこかで賢治作品と出会うきっかけになる可能性 があることは容易に想像される。他にも2020年1 月から放送を開始したテレビアニメ『マギアレ コード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』の第一話 冒頭には、「銀河鉄道の夜」を参照する場面がある。 Twitterで「マギアレコード|「宮沢賢治|と検索 すると、このことはすでに指摘されており、しか もアニメを考察するため、これまで読んだことの なかった賢治作品を手に取ってみたという報告さ え見ることができる。新たな読者が、『マギアレ コード』をきっかけに生まれているのだ。

現在、賢治との出会い方はいくつもあると推測できる。そして、私はこの状態が、賢治受容にとって好ましいと捉えている。なぜか。それはこの状態が、受容の下支えに寄与すると考えられるから

である。きっかけは何であっても構わない。何もないところからは始まらず、維持もままならないのは明白である。あとは賢治と出会った人が、熱心な受容者となる手立てがあれば申し分ない。ロマンチックな物言いになっていることは承知している。しかし彼らが抱く様々な期待に寄り添っていくことこそ、次の受容の担い手を生むことにつながるのではなかろうか。そのためにはひとまず、賢治作品の魅力が生じている文脈が何であるのか、そこに対する感度の高さ、目配せを大切にしなければなるまい。それは今後の宮沢賢治というコンテンツを延命させる上で、いっそう大切になるはずである。

原稿が語る賢治の考え

奥州市水沢在住 原子内 貢



宮沢賢治の作品は、読者が分かり易いように解説を加えているわけではないので、作品の状況を判断して作品を解釈すると分かり易いと思われる。

ここでは作品「五輪峠」を例 に解説したい。五輪峠は岩手県

の遠野市と奥州市江刺米里との境界にあり、賢治の好きな種山ヶ原の尾根続きの北西端である。 JR釜石線の鱒沢駅で下車し、南南東へ約4km進み、ここ小友から西へ7km進むと、この峠に達する。

「五輪峠」(定稿)が出来るまでの経緯が知りたくて、「五輪峠」詩群(1924.3.24)をみると、峠に達して視界の開けた西の方を見ての会話の様子が含まれている。

「向ふの雲まで野原のやうだ あすこらへんが 水沢か 君のところはどの辺だらう」

「五輪峠 | 下書稿(二)

この会話からごく親しい目下の人で、水沢かど うかを判断出来ると思っての質問である。

「きみのところはこの丘陵地のつづきだらう やっぱりこんな安山集塊岩だらう」

「丘陵地を過ぎる」下書稿(一)「丘陵地」 新生代第3紀中新世前期~中期(今から1500 ~2500万年)にマグマが地表に噴出してできた 火山岩が分布している。(北上川の東方一帯の東西 約15km、南北約30km、花巻—水沢の広範囲に分布) 宮沢賢治記念館や胡四王神社のある胡四王山や 北上市の国見山などはこの岩石からなる。この岩石の大部分はたくさんの火山角礫を含む角礫凝灰岩であり部分的には溶岩の所もある。全体の成分は安山岩質といえる。宮沢賢治の時代には安山岩集塊岩と呼んでいた。この岩石の分布している所は、周りに分布している軟らかい堆積岩類より侵食されにくく、侵食されず丘陵地を形成している。

宮沢賢治は「君」の家が丘陵地にあることも岩盤が安山集塊岩であることも知っているらしい。

「いつころ行けばいいかなあ ぼくの都合は まあ来月の十日ころ 仕事の方が済んでから」

「丘陵地を過ぎる」下書稿(二)

すでに行くということは約束してあるのだろう。 年度始めの忙しい時期を過ぎてからとういことは、 ごく親しい生徒の可能性が考えられないだろか?

「木を植える場所や何かも決めるから(中略) きれいにこさえとかないと お嫁さんにも済まな いからな」 「丘陵地を過ぎる」下書稿(二)

「君」は独身で、木を植える農家の様な敷地がある。

以上のことから、水沢か水沢周辺出身の生徒で、 担任した生徒の可能性であることが推測される。

では、「水沢と判断できる生徒」がいた可能性があるか?

○ 大正10年12月3日宮沢賢治が稗貫農学校の教 諭となる。

この時点で2学年の在籍生徒…水沢出身なし 1学年の在籍生徒…水沢出身なし

大正11年4月入学→大正13年3月卒業…この 学年は宮沢賢治が初めて担任したクラス(36名) で多くの教科・実習を担当、舎監もして生徒と 接し親密である。イギリス海岸で動物の足跡化 石切り取り(8月6日~7日)やクルミ化石の 採集など多くの思い出のある生徒たち。(2年 次の担任は白藤慈秀先生)…水沢出身2名含ま れる。

大正12年4月入学→大正15年3月卒業…水沢 出身なし

○ 「五輪峠」には1924(大正13.3.24)の日付がある。 初めて担任した思い出深い生徒たちが大正13年 3月23日に卒業した。卒業式後、そのうちの1 人を誘って岩手軽便鉄道(JR釜石線)で遠野 方面に向かう。鱒沢駅で下車し、五輪峠に水沢 出身の誰かと向かったであろう。

○ 水沢にはすでに県立の農学校があったにもか かわらず修業年限2年の郡立の稗貫農学校に入 学は何故?

大正11年3月に江刺郡田茂山尋常高等小学校を 清原繁雄と従兄弟の佐藤威が卒業した。担任は斎 藤節夫先生で、稗貫農学校の白藤慈秀先生と親し かった。2人の先生に勧められて稗貫農学校に 行った。

○ 2人の水沢出身の生徒のうち、誰が卒業式終 了後に宮沢賢治と五輪峠へ行ったか?

宮沢賢治のメモにも、水沢出身の清原繁雄・佐藤威のメモにも明記されていない。宮沢賢治が親しみを感じている生徒であれば、宮沢賢治の作品にも登場する名前かもしれない。

・作品「山地の稜」 高橋吉郎が…少しけげんさ

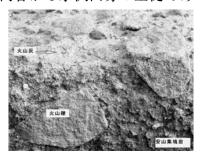
うにこっちを見てゐる。清原も見てゐる。

・作品「白い鳥」(傷つけながら海べをしたつて 行かれたのだ)清原がわらつて立つてゐる 宮沢賢治は清原繁雄に対し、「稗貫農学校は修 業年限2年で中途半端であるから、卒業したら水 沢農学校に編入学するように」勧め、編入手続き にも付き添った。その後、無事に編入でき水沢農

○ 結論 会話の内容から水沢出身の生徒であ

ろう。しかも北 上川の東の丘陵 地に自宅がある。 このような条件 をみたすのはない だろうか?

学校を卒業したのである。



語い

一賢治が繋ぐ心と心一

\$\$ \$\$.0.0\$.00\$ \$\$ 0.00 \$\$ \$\$.00.0\$.00

賢治さんからいただいたもの

賢治作品語り手 野口田鶴子



賢治作品を語っている私は、 岩手県に生まれ、その地で18才 まで育ったことを、幸せだった としみじみ思います。その間、 溢れるほどの恵みを受けたとい う思いは、年を経てますます強 いものになっています。

それらの恵みは、光や風、四季の移ろいという 自然現象でもあり、賢治を尊敬する教育者達が、 もくもくと伝えてくれた賢治精神でもあります。 そして、この恵みが、私の語りの原点であり、 原動力となっているのを実感しています。

ある時、若い優秀な賢治研究家の依頼で、彼女 が講師を務める大学で「鹿踊りのはじまり」「あ すこの田はねえ」を岩手の方言で朗読する機会が ありました。朗読の後、一人の学生が、今にも泣 き出しそうにグジャグジャな顔をして近づいて きたのです。「俺、今日、嬉しがった。ちゃんと、 授業さ出で、勉強するがら」と言うのです。聞け ば、岩手県出身の経済学部の1年生でした。 この時、私は、方言(ことば)は、その土地の 風土の一部だと、強く思いました。方言で語られ た賢治作品が、彼の育った風土と共に彼の体を満 たし、エネルギーになったのだと。

もちろん、この経験は、賢治の多岐にわたる世界との、ごくごく、小さな接点でしかないことは 言うまでもありません。

こんな経験を経ながら、素朴な思いで賢治の世界に足をふみ入れてしまった私は、時に、想像を絶する世界に戸惑いながらも「決められた時に、決められた所で、賢治作品に出会う」場を作りたいという夢を抱いていました。そして、とうとう、2002年、その夢が実現しました。

東京広尾・東江寺で 年2回 横浜ギャラリーカオルで 月1回

このように定期的に行う会 を通して、今も、多くの人々 との出会いが続いています。

毎回来てくれる人、度々来 てくれる人、遠い地に居を移 してしまった人、病を得た人、 長い不在の後ひょっこり訪れ る人、銀河鉄道に乗って南十



字で降りていってしまった人…。

私を支えてくれたこれらの人々に混じって、あ の、今にも泣き出しそうにグジャグジャな顔をし た学生が、遠い記憶の中で、笑っているような気 がするのです。

「下の畑」賢治の原風景

宮澤賢治自耕の地「下の畑」保存会 事務局 松田廣邦



今年、「下の畑」保存会が発 足して10年になる。

この地は、賢治が農学校を退職し「本統の農民」になることを決意し崖下の荒地を開墾して作ったものであり、理想を追い求めた賢治の活動拠点でもある。

ここは、保存会発足以前に何人かの人が手を掛けていたが、その方々は今はもう亡くなっていない。そのまま荒地になろうかという時に起ち上がった人がいた。現在の会長の菅野將勝である。保存会設立の呼びかけに6人の同志が集まった。現在、賛助会員含めて12名が携わっている。

誰も賢治について特別な知識を持っているわけではない。普通の人である。ただ、花巻の生んだ 偉人宮澤賢治が、此処に居たということ、そして その活動拠点が、この地であったこと、さらにそ の理想を追い求めた原風景が此処にあることを知り、その大切な場所を荒らしておいてはいけない と感じてこの地に手を掛けてきたものである。 畑の耕作はもとより土手に生い茂る雑木・雑草の刈り払いを行い、ようやく北上川の流れが見られるようになった。景観が少しずつ良くなるにつれ、次第に地元の人達との連携も生まれてきた。

春先の花壇の花苗の植栽には、高齢者や子どもたちの協力が得られるようになり元気な明るい声が聞こえるようになった。ここ数年前からは、賢治作品との関係にロマンを感じた方々との繋がりが出来、仙台白菜の栽培がおこなわれ、地元と仙台の小学生の交流にも発展している。近年「下の畑」を訪れる観光客・賢治ファンが増え、会話を交わす機会が多くなった。地元として何かおもて

なしが出来ない かと年に1回の 講師を招いての 勉強会を続けて いる。



保存に関して

はメンバーの高齢化が課題に挙げられている。最 近、行政、地域から維持保存に対して理解や協力 の兆しが表れてきたことは大変嬉しいことである。 賢治について何を知っているかと問われれば、そ れに応える術は持ち合わせておらず恥ずかしい限 りであるが、ただこの地に偉人宮澤賢治が存在し たという特別な感慨を持っているゆえに大切な場 所として大事にしていかなければと考えている。 そんな地が此処にあることを知ってもらい賢治 ファンの繋がりと触れ合いの場所になっていくこ とが保存会の強く望んでいることである。

飛館者の声

記帳ノートから

No.394 ~ 400 (令和元年5月14日~令和元年10月4日)

子どもの頃、祖母から贈られた賢治の作品集が好きで、繰り返し何度も読んでいました。その中でも『猫の事務所』はとても印象深く、大人になった今でもよく憶えています。今回の特別展の初期形には、雑誌掲載原稿とは違うところが幾つかありますが、最後の「僕は獅子に半分同感です」の一文がなかったのには驚きました。最後の一文だけに、その意味を考えさせられ、どうしてこの文を加えたのかとても気になります。他にも興味深い箇所があり、とても楽しかったです。来館は今回が初めてでしたが、ぜひまた来たいと思っています。(長野県)

イーハトーブ、エスペラント語、賢治の世界観、心の世界、生きること。ずっと知っているつもりであったのに…奥深くて、再び感動しています。歳とか、年代とかではなく、もちろんその生きた時代もかなり影響はしているのでしょうが、心の豊かさは不変なのだなあと。再々来館してよかったです。いつも発見があります(ここから見える景色もステキです)。

上代は違いますが、大人になって人間社会の汚さを見ても、自分の心の中に、こんなに広く澄んだ美しい世界を持ち続けた彼は、小さな頃からきっと生きるということの本質を知っていて、それを見失うことなく、作品を通して私たちに伝えようとしていたのだろうな、と思いました。仕事で疲れた時、作品に触れると心が洗われ、楽になります。(東京都)

米人年前に母と来ました。ここからの美しい眺めに母は 大ポーズをとって座り、私が写真を撮りました。おと としの秋、母は亡くなりました。母との思い出をかみしめ たくて主人と来ました。北上川と自然の美しさにあらため て感動しました。今回は私がポーズをとって主人のカメラ におさまりました。思い出に残る記念館です。(神奈川県) ■ 女と 2 人旅。宮沢賢治の人柄、そして詩や童話はも とより絵や音楽まで及ぶ素晴らしい才能に感動! 78 歳、もう来ることは叶わないでしょうが、忘れられない思 い出となりました。写真もいっぱい撮ってもらいました。 晴天にも恵まれ、岩手の山々、空、町並のパノラマは日本 のものとは思えません。外国よりもっと感動の風景です。 (兵庫県)

▼ 成21年生まれです。私は、小さいころから賢治さんが大好きです。賢治さんのお話はとても深く、なんども読み返さないとりかいできないことがあります。でも、そんなむずかしい深い物語が、私は大好きです。特に『注文の多い料理店』は、3歳の時に読み感激しました。宮沢賢治ノートも作りました。担任の先生のお父様も賢治さんが大好きで、初版『注文の多い料理店』のレプリカを持っていて、今度見せてくれると約束していただきました。とても楽しみです。この記念館で、自分が知らなかったことをたくさん知ることができ、とてもよかったです。(東京都)

上世学校の作家で、独特の世界観をもつ変わった人」 一定というイメージだった宮沢賢治の、わずか30数年の人生のうちにもった豊かな好奇心と知識、それに裏打ちされた確かな才能をまざまざと感じさせられた。学ぶとは知ることであり、やがて世界(宇宙)を感じること。そして、みんなが一つである「個人-集団-宇宙(全体)」を感じ、全体の幸福を願うことにつながるとあらためて学んだ。賢治さんが見ていた世界はどんなだったか、作品をまた読み直したくなった。(島根県)

巨又治さんの作品は小学生の頃から好きで、今でも何度 **貝**も読み返しています。世界観が言葉で表せないほど 独特で、とても素敵です。数ある文豪の記念館を訪ねまし たが、初めて来た宮沢賢治記念館はとても素晴らしかったです。(山形県)

→ の地へ来ると「ただいま!」と言ってしまうような、 どことなく懐かしい空気があります。昨年8月に訪れて以降たくさん賢治の作品を読みました。優しくて、素直で、時に残酷だったりしますが、生きていくのに欠かしてはならない言葉が散りばめられており、それを目にするたび、僕は涙します。僕も賢治のように「人のことを思いやれる」人間になろうと心に決めました。またこの地に戻って来られるように、日々を精一杯頑張ります!(神奈川県)

→ 手県は初めて来ました。すごくきれいなところです。 → 友達と一緒にここで卒業旅行ができ、本当によかっ たです。また機会があれば、来ます! (台湾)

め ちゃかわいい記念館です。銀河鉄道列車もすきです。 賢治の文学は素晴らしいです。(台湾)

アメリカからきました。ケンジさんのことをとても respectしています。ニッポンだいすき!ケンジさんだいすき! (米国)

ラグビーW杯観戦の後こちらへ参りました。宮沢賢治の世界観にふれ、宇宙の中の一粒である人間がもっと自然体で、謙虚に生きなくては、地球そのものも危ういと感じています。賢治がもし生きていたなら、彼の眼に世界はどのように映るだろうか。環境破壊に向かう人間、経済奴隷となって日々無目的に働く人間、自分を痛めつてばかりいる人間、そして、それについて何の疑問も抱かぬ今の日本…。もう一度、人間としての原点に立つべきだとあらためて思いました。(東京都)

■「賢治の世界」セミナー 2019

新しい令和の時代の幕開けとなった今年度、「賢治の世界」セミナー(平成23年度開始)は、9年



目の開催となりました。 今回も、市内小中学 校から賢治さんゆかり の花巻農業高等学校ま で、19校20会場2,623

人の皆さんが、新たな「賢治さんとの出会い」を 果たしてくれました。

のべ31人もの講師がそれぞれに趣向を凝らし創 意工夫した「賢治の世界」は、9月から、初めて 講師をお願いした皆さんが登場しました。

"風の電話"の佐々木格さんは、震災時、多くの人に元気を与えた「雨ニモマケズ」、そして賢治の「利他の精神」を穏やかに語ってくれました。

写真家の瀬川強さんは、イーハトーブの美しい映像に加え、作品に出てくる鳥や動物達の声まで登場させ、中学生たちは大喜びでした。

天文学者の小石川正弘さんは、藤城清治の影絵 にそって、銀河鉄道の旅。子どもたちは、賢治ば かりか、星や宇宙の魅力に取りつかれたようです。 復興ドラマの出演経験もある松本亜季さんは、 ピアノや振りをまじえ、情緒豊かに「雪渡り」の 語り。初冬の大迫に、キックキックトントン♪♪

||「賢治の世界」ワークショップ|

賢治ゆかりの地 紅葉の西和賀を訪ねて

10月21日、賢治の教え子・桜羽場寛の実家であり「春と修羅」にも登場する延命寺での詩碑『巨杉』見学と胎内くぐりを皮切りに、一路紅葉の西和賀に向かいました。「冬のスケッチ」でも詠まれた仙人鉄山など和賀の色づく山並み、錦秋湖を横目に碧祥寺博物館に到着。400年近い歴史を持つ古刹碧祥寺、その境内にある5つの資料館で雪国の生活、マタギの暮らしに思いをはせました。

お待ちかねの昼食タイムは、ドライブイン湯田。 店主田中さんによる「水仙月の四日」を観劇。語

りはもちろん、手づく りの舞台セット、小道 具(表紙写真)の素晴 しさに、一同大感激! 帰路の錦秋湖大滝(ダ ム)の迫力ある放流も



含め、内容の濃い感動の一日となりました。

童話「貝の火」 ガラス体験と大迫を訪ねて

西和賀の感動も冷めやらない翌月28日、賢治作品の舞台と言われることの多い大迫町に出かけました。「早池峰と賢治の展示館」や「市総合文化財センター」で賢治との関わりをはじめ、早池峰、神楽など、多くのことを見て聞いて学びました。

しかし、皆さんのお目当ては、ホモイの「貝の



火」ならぬガラス体験。 自分だけの宝珠を求め、 慣れないガラス細工に 苦戦しながらも、歓声 と穏やかな笑顔が絶え ることはありませんで

した。1週間後に届いた「自分の宝珠」の出来映 えはいかがだったでしょうか。

「一」「特別展》のお知らせ」

◆童話「四又の百合」

「四又の百合」は、ハームキャというお城がある町に正徧地(仏の別名)がやってくるというお話です。王の命を受けた大蔵大臣は、仏に捧げる百合を探しに林へ行き、百合を持った子どもと問答の末、その百合を手に入れ持ち帰ります。王をはじめ城下の人々は、町をきれいにして仏が来る明朝を待つのでした。

この作品は仏教色が強く、また城名の「ハームキャ」は「花巻」を連想させます。そこで、賢治が生まれ育った花巻と信仰心を重ねてイメージした作品ととらえることもできます。

会期中、記念館のある胡四王山には百合の花が 咲くことからも、原風景を感じることのできる展 示にしたいと思います。

期間 | 令和 2 年 5 月16日(土)~ 7 月19日(日)

直筆稿の公開は

- 6 月20日(土)~ 6 月28日(日)全 6 葉
- ※6月19日金)、6月29日(月)は資料入替のため特別展示室を閉室します。

◆「賢治と志功」

宮沢賢治と棟方志功は、残念ながら直接の交流 はありません。しかし、雑誌「児童文学」(昭和7年) に賢治の「グスコーブドリの伝記」が掲載された 際、その挿絵を担当したのは、洋画から版画に転 向したばかりの棟方志功でした。当時のことを棟 方は殆ど覚えておらず、後年改めてその挿絵を見 てよくも悪くも自 分にこんな絵が描 けたものだと驚い たといいます。

棟方は、後に「雨 ニモマケズ」や「四 又の百合」といっ



た賢治の作品を版画にしており、記念館開館時に 直接寄贈されたものもあります。棟方の人物像に 迫るとともに、棟方の創作した賢治作品にも迫る 展示にしたいと考えています。

|期間| 令和2年7月②日休~9月②日火

直物資料の公開は

○数字は祝日

- ① 7月②日休~8月2日(日)
- ② 9 月12日(土)~ 9 月22日(火)
- ※8月3日(月)、9月11日(金)、9月23日(水)は資料入替のため特別展示室を閉室します。

◆童話「なめとこ山の熊」…詳細は次号で‼

「なめとこ山の熊」は、猟師の淵沢小十郎が主 人公のお話。小十郎は熊捕の名人ですが、本当は 熊を捕りたくありません。熊の言葉もわかり、熊 たちも小十郎のことが大好きなのです。でも、生 活のために毛皮をとるしかないのです……

期間 | 令和2年10月3日生

~令和3年5月9日(日)

直筆稿の公開は

- ①10月3日(土)~10月11日(日) 第1葉~第7葉
- ②令和3年2月6日(土)~2月14月(日) 第8葉~第14葉
- ※10月12日(月)、令和3年2月5日金、2月15日(月)は資料入替のため特別展示室を閉室します。

編集後記

"東日本大震災の時、賢治がいたら何を思い、どう行動しただろう?"と中学生に問いかけた講師さんがいます。この言葉が、折にふれ頭を擡げてきます。政治や経済、教育といった「生活」の中で暗いニュースに接した時や体にこたえる作業の最中など、どちらかというと自分の心が折れかかった時が多いようです。「コロナウィルス」が猛威を振るう昨今も同様です。決して賢治に「万能」を見ているわけでもなく、具体的な対応策を期待しているわけでもない、のにです。彼の多方面に広がる知識と物事を鋭敏にとらえる感性、そしてそれらによって構築された、限りを知らない「賢治の世界」。そんな賢治の世界に何かしら「明日へのヒント」を求めているのかもしれません。翻って、賢治は今の私たちを、花巻を、日本をどんな目で見ているのでしょうか。ちょっとだけ気になる今日この頃です。